

Ⅱ 第9回 鯨に関する研究座談会

共催 鯨類研究所
水産海洋研究会

主 題 1967/68年度(才22南)南極洋捕鯨操業について

日 時 昭和43年8月9日(金) 13:00~17:00

会 場 日本水産(株)会議室

コッパナー 奈須敬二(遠洋水産研究所)

話題および話題提供者

- 1 操業概要および結果について
飯田陸之助(極洋捕鯨株式会社)
秋岡 正時(日本水産株式会社)
吉成 照雄(大洋漁業株式会社)
- 2 南極洋産イワシクジラの外部寄生虫による系統群識別の検討
1967/68 漁期日新丸船団
河村 章人(鯨類研究所)
- 3 タスマン海およびニュージールランド東方海域産イワシクジラの生物学的特徴について
奈須 敬二(遠洋水産研究所)
- 4 過去の捕鯨操業をかえりみて
泉井 守一(大洋漁業株式会社)
- 5 総合討論

1: 操業概要および結果について

飯田陸之助(極洋捕鯨株式会社)

1967/68年度(才22次南鯨)南極洋捕鯨は、太平洋域で操業したが、その理由として次の諸点があげられる。

- 1) 1966/67年度(才21次南鯨)操業の結果より、インド洋漁場は才22次南鯨において船団集する公算強く、その場合イワシクジラを主目標とする才3極洋丸船団としては見通し困難であつた。
- 2) 太平洋域のナガスクジラおよびイワシクジラは、いづれも若干小型ではあるが、高緯度域の鯨体は概して大型となつている。従つて、主として太平洋域の南側で大型鯨を捕獲する計画を立て